

「たちあやか」を導入した高糖分高消化性WCS用イネ作期分散体系

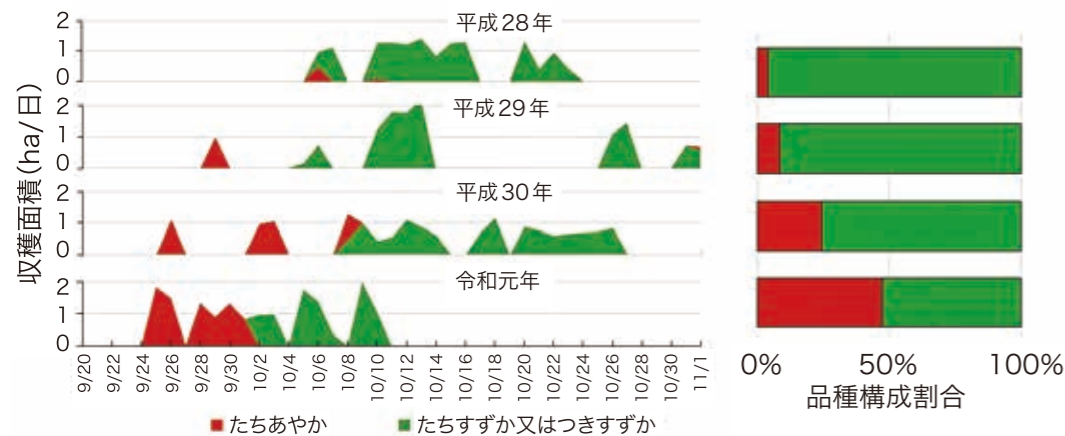
1. 「たちあやか」は、県内で最も普及している高糖分高消化性WCS用イネ品種「たちすずか」に比べて早生であり、作期分散が可能です。

品 種	年 次	播種日 (月/日)	移植日 (月/日)	出穂期 (月/日)	黄熟期 (月/日)	乾物収量 (t/10a)	
たちすずか	①	平成27年	5/12	5/28	9/3	10/2	1.6
	②	平成28年	5/9	5/26	9/1	9/30	1.7
	③	平成29年	5/6	5/22	9/2	10/4	1.7
	④	平成30年	5/7	5/24	9/4	10/3	1.9
	⑤	平成27年	6/12	6/25	9/16	10/19	1.5
	⑥	平成28年	6/3	6/20	9/8	10/11	1.6
	⑦	平成30年	5/15	6/1	9/6	10/6	1.4
	⑧	令和元年	5/14	6/3	9/4	9/30	1.2
	⑨	平成30年	-	6/2	9/6	10/2	1.5
	⑩	令和元年	-	6/18	9/9	10/7	1.3
たちあやか	①	平成27年	5/12	5/28	8/17	9/14	1.5
	②	平成28年	5/9	5/26	8/16	9/9	1.5
	③	平成29年	5/6	5/22	8/15	9/14	1.5
	④	平成30年	5/7	5/24	8/13	9/6	1.6
	⑤	平成27年	6/12	6/25	9/2	10/1	1.3
	⑥	平成28年	6/3	6/20	8/30	9/26	1.4
	⑦	平成30年	5/15	6/1	8/15	9/9	1.5
	⑧	令和元年	5/14	6/3	8/19	9/13	1.2
	⑨	平成30年	-	6/2	8/22	9/19	1.4
	⑩	令和元年	-	6/18	9/3	9/30	1.1

- 5月下旬の移植では、「たちあやか」は「たちすずか」と比べて、黄熟期が20日前後早く、9月上中旬に収穫することが可能である。
また、6月下旬移植では、この差は小さくなる。
- 5月下旬移植は、「たちあやか」「たちすずか」共に収量性が高く、6月下旬移植では収量性がやや劣る。
- 高糖分高消化性WCS用イネ品種「たちあやか」と「たちすずか」を組み合わせた作期分散体系では、5月下旬～6月初めの移植が有効である。

※①～⑥は農業研究所内圃場(松阪市)、⑦⑧は現地実証(伊勢市)、⑨⑩は現地実証(伊賀市)
※栽植密度はすべて50株/坪 ※収量は地際部10cmを除いた乾物(水分0%)重

2. 作期分散により、収穫作業の前進化や高糖分高消化性WCS用イネの作付面積の拡大が可能です。



- 左図は、実証経営体(WCS用イネ作付面積約18ha：令和元年)における「たちあやか」導入の推移とそれに伴う収穫作業の変化を示したものである。
- 「たちあやか」を導入することにより、9月下旬から収穫作業を行うことが可能となり、サイレージ品質の良好な高糖分高消化性WCS用イネの作付面積を維持しつつ作業の前進化が図られている。このことにより、実証経営体においては、後作の麦の播種作業との競合が回避された。

このリーフレットは農林水産省委託プロジェクト研究「収益力向上のための研究開発」(自給飼料分科会)により行われた研究の成果を基に作成しました。

問い合わせ先

三重県農業研究所(0598)42-6359
 三重県畜産研究所(0598)42-2029
 三重県中央農業改良普及センター(0598)42-6705



台風常襲地域でも
倒伏させない
たちあやかの栽培暦

令和2年2月

三重県農業研究所
 三重県畜産研究所
 三重県中央農業改良普及センター

台風常襲地帯(三重県)における高糖分高消化性WCS稲品種「たちあやか」栽培暦

月旬	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月													
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下											
生育・作業	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 15%;"> <p>播種</p> <p>種子消毒</p> <p>浸種</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>育苗</p> <p>育苗日数は16日程</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>移植</p> <p>箱施薬</p> <p>基肥施用</p> <p>除草剤施用</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>追肥 (分施肥の場合)</p> <p>追肥適期は7月上旬～中旬 中干し後に施用</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>出穂</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>収穫・調製</p> <p>収穫適期は出穂後30日頃 刈遅れに注意!</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>秋季に堆肥施用 (1～2t/10a)</p> </div> </div>																															
	<p>倒伏に耐える→目標草丈150cm</p>																															
	<p>移植時の「ホシアオバ」(左)「たちあやか」(右)</p> <p>移植45日後の草姿</p> <p>出穂時の草姿</p> <p>黄熟期(収穫適期)の草姿</p> <p>収穫風景</p>																															
	<p>深水</p> <p>浅水</p> <p>地耐力確保、転び型倒伏防止のため 中干し(移植後40～50日)</p> <p>中干し</p> <p>間断灌水</p> <p>落水</p> <p>出穂を確認したら落水 (極端に圃場が乾燥する場合は走り水を行う)</p>																															
管理のポイント	<p>土づくり・施肥</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 耕畜連携により完熟した牛糞堆肥を1～2t/10a施用する。 ■ 堆肥連用の場合は減肥する。 <table border="1"> <caption>施肥量</caption> <thead> <tr> <th>施肥体系</th> <th>窒素成分施用量(10a)</th> <th>肥料例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>省力型</td> <td>10～12kg</td> <td>LP50</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">分施</td> <td>基肥6kg</td> <td>高度化成</td> </tr> <tr> <td>追肥4～6kg</td> <td>NK化成</td> </tr> </tbody> </table>							施肥体系	窒素成分施用量(10a)	肥料例	省力型	10～12kg	LP50	分施	基肥6kg	高度化成	追肥4～6kg	NK化成	<p>移植</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 草丈を抑えて収量を確保するため、栽植密度を50株/坪とする。 ■ 移植時期が遅くなると黄熟期が「たちすずか」と近づく。 							<p>水管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 移植後は深水管理で蒸散を抑え、活着を促すとともに除草剤の効果を安定させる。その後は浅水とし分けつの発生を促す。 ■ 移植後40～50日で中干しを行い、その後は間断灌水とし、出穂を目安に落水する。分施肥の場合は、追肥前に中干を終える。極端に圃場が乾燥する場合は走り水を行う。 						
	施肥体系	窒素成分施用量(10a)	肥料例																													
	省力型	10～12kg	LP50																													
分施	基肥6kg	高度化成																														
	追肥4～6kg	NK化成																														
<p>育苗</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 健全種子を用い、播種量は乾粃で150g/箱とする。 ■ 高温期の育苗のため、換気に留意し、徒長や病害の発生を防ぐ。また、育苗期間は短くなり、播種から16日程で移植が可能。 							<p>病虫害・雑草防除</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 移植時(播種時)の殺虫殺菌剤の箱施薬が省力的である。一般的な栽培より田植え時期が遅くなるため、生育初期といもち病最盛期が重なる。初期の対応が重要である。 ■ 殺菌剤、殺虫剤の浸漬処理または温湯消毒(60℃・10分)による種子消毒に加えて、いもち病には殺菌剤による播種～播種7日後の育苗箱灌注処理が有効である。 ■ 除草剤散布後は湛水状態を保ち、雑草防除を徹底する。 ■ いもち病等、箱施用剤の残効を考慮し発生状況に応じて防除を行う。 ■ 飛来害虫であるコブノメイガやウンカ類についても発生予察情報に注意し防除対策を講じる。 							<p>収穫・サイレージ調製</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 出穂後60日を経過しても水分60%以上、糖含量9%を維持するが、「たちすずか」と異なり立ち枯れの進行が早く、粃の脱粒、遅穂の発生、TDN含量の低下傾向が認められる。そのため適期は出穂後30日頃とし、収穫が遅れないようにする。 ■ 倒伏や水分含量の低下など、サイレージ調製に懸念がある場合は、サイレージ添加資材の使用が望ましい。 																		
<p>病虫害の発生情報は三重県病虫害防除所 www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm</p>																																